

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070103399		
法人名	株式会社はるす		
事業所名	グループホームはるすのお家・和歌山(やまびこユニット)		
所在地	和歌山県和歌山市福島486番地1		
自己評価作成日	令和3年5月13日	評価結果市町村受理日	令和3年9月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=3070103399-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県社会福祉士会
所在地	和歌山市手平2丁目1-2 和歌山ビッグ愛6階
訪問調査日	令和3年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様が今まで過ごされていた環境や生活状況を伺い、可能な限り活動の時間を合わせさせていただいています。施設ではありませんが、名前の通りお家にいるをモットーに気兼ねなく過ごせる場所の提供を心がけています。
また、従業者の年齢層も幅広く在籍しており、入居者様に合わせて適切なケアや応対を行っていきたくと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム全体を通じて働くスタッフが皆、「ここで勤めていて楽しい」、「しっかりと休みが取れている」、「職員全員が仲が良い」と口を揃えるなど、大変働きやすい職場であるということが確認された。入居への呼称については、「〇〇ちゃん」を徹底的に廃し、姓に「さん」をつけてお呼びする(女性の場合は名の方に「さん」をつける場合もある)など、入居者の人格を尊重した対応がなされている。入居者の状態と好みに合わせて、洗濯物たたみや掃除、食器拭きなどを無理なくスタッフとともに行われている。入居者同士の交流も見られ、スタッフが間に入って取り持つことによりより良いコミュニケーションとなっている。テレビ、新聞なども用意されていて、入居者が自分らしく過ごせるよう工夫されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットで理念を作成し、ユニット内に掲示し、管理者・職員で理念を共有し実践に繋げている。	「地域との結びつきと本人のやりたい気持ちを大切に、家族様と共にええあんばいでやっていこらよ」と理念が掲げられている。今後は入居者を巻き込んだ理念の更新が予定されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年までは回覧板を渡しにいたり、溝掃除や毎日の近隣の掃除、ボランティアの来訪等を行っていたが、コロナ禍もあり今年度は行っていない。	コロナ禍によって以前はできていた回覧板の往来や、傾聴・懐メロの演奏・腹話術・手品等のボランティアの受け入れ等の地域とのつながりが途切れてしまっている。コロナ終息後の具体的な予定が立たないでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との交流については挨拶や世間話をする間柄ではあるが、認知症についての相談や地域の方への発信は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在コロナ禍という事もあり、運営推進会議は文書開催となっているが、そこで要望があった際には内容を検討し、サービスに繋ぎ込ませていただいている。	運営推進委員会は2か月に一度、文書をもって開催されている。家族からは意見が返ってくることもあり、運営の参考にされている。今後は地域包括支援センターや民生委員等への文書発出も予定されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在コロナ禍の為、運営推進会議が書面開催になっており、機会が少なくなってきたはいるが、コロナ禍が落ち着き次第、より協力関係を築けるように取り組んでいく。	ユニットにおける短期入所サービスの開始の際等は、保険者である和歌山市に人員配置等の法令上の詳細を確認して、コンプライアンス重視に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に4回の「虐待防止・身体拘束廃止・権利擁護研修」を行っている。普段より身体拘束を行わないように、スタッフは意識を持っており、玄関や居室の施錠はしていない。	年に4回もの虐待防止及び権利擁護・身体拘束廃止の委員会が開催され、年に2回、職員向けの研修会が実施されている。今後は外部講師の招へいや外部研修への職員の派遣などが予定されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に4回の「虐待防止・身体拘束廃止・権利擁護研修」を行っている。普段より言葉使いを気を付けたり、入居者様の人権について話し合う事もあり、スタッフも意識を持って、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に4回の「虐待防止・身体拘束廃止・権利擁護研修」を行っている。日常生活自立支援事業について学ぶことは出来なかったが、成年後見制度については研修で学び、その必要性を考える事が出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際には、利用者様や家族様と十分に話し合い、家族様からの質問にも丁寧に答え、理解して頂く為に務めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で相談できる場を作っていたが、コロナ禍もあり、運営推進会議が文書開催になっている事もあり、外部者へ表しにくくなっている。要望や相談があった際は次回の運営推進会議の際に内容についての回答等を掲載させて頂いている。	運営推進委員会は2か月に一度、文書をもって開催されている。27名中14名の家族から意見が返ってきており、運営の参考にされている。入居者自身からの意見や要望はスタッフらが日常的に収集するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の契約更新の際に要望や提案を聞ける機会を設けている。また、毎月のミーティングや相談をしてもらえる環境づくりをして、何かあればその都度相談に乗っている。	スタッフは皆、「ここで働いて楽しい」、「皆仲が良い」と言う等、誠に素晴らしい職場環境であり、管理者以下の職員全員の努力が見て取れる。無資格者もいるが資格取得に向けて、前向きな姿勢も確認された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度の人事考課の際に面談を行い、希望や問題点について話し合える機会を設けている。その際に翌年の目標の設定等、自己研鑽をできる様に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に1度の人事考課の際に面談を行い、希望や問題点について話し合える機会を設けている。その際に自己評価をしてもらい、不足していると思う事を抽出したり、研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年までは、外部研修や他社の勉強会に参加できていたが、コロナ禍という事もあり、現在は控えさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を元に本人様のお話を十分に傾聴し、性格も把握したうえで、他の入居者様と安心して生活を送れるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族様の不安や要望等の思いに耳を傾け、また、サービスを開始した後も家族様とお話をする機会を設け、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人様や家族様の思いに耳を傾け、また、生活歴や既往歴、以前に利用されていた介護サービス等の内容を把握しアセスメントを十分に行い、必要とされる支援を見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、知恵や考え方を教えて頂き、共に生活させて頂くという姿勢を大切にし、お掃除や洗濯等も一緒にさせて頂き、共に支えあう関係として支援させて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の為、面会は謝絶させて頂いていたが、電話等で家族様のお考えや思いを傾聴し、家族様との信頼関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、面会謝絶になっており、昔の友人や親戚の方などのなじみある関係への接点を持つことが出来なかった。今後はコロナ禍が落ち着いた頃を見計らって、接点の機会を得たい。	入居者自身の兄弟が営む喫茶店に行く、以前から懇意の美容室に行く、墓参りに行くなどがあったが、コロナ禍で途切れてしまっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人や話が出来る様に席順等を配慮、もしくはトラブルにならないように配慮を行い、入居者様同士の関係を把握し、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、気軽に相談できる窓口となれるように努めている。相談された場合、提案やアイデア等の支援が出来る様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話や、その人の行動等から、本人様の思いや意向を想定し、本人様の思いに沿って、支援している。また、思い違いのないように何度も検討し、本人様の思いを汲み取っている。	食事や入浴などの時間は出来るだけ入居者の意に沿えるよう工夫している。食事に関して「思った通りにしたい」という入居者に対して、家族からの差し入れが主な食事内容になっているなど、管理的でないグループホーム独自のスタイルが輝いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人様や家族様から生活歴を確認しアセスメントシートに記載している。その後も本人様や家族様と話をする機会を増やし、常に知らない情報がないか観察している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で観察を行い、本人様の訴えにも傾聴または、推察し、記録に残し現状の把握に努めている。定期的にケアカンファレンスを行い有する力や思いの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフと毎月のケアカンファレンスで本人様の状態を確認と把握し、担当者会議で主治医との意見交換、家族様の思いを聞き、本人様にとって、必要なケアプランの目指し作成している。	入居者ごとの個別日誌にケアプランの短期目標が記されており、目標の達成状況の確認欄まで設けられている。ケアプランを念頭においた取り組みであり、他のグループホームでは見られない画期的な工夫である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、日常生活に関する事とプランの実施との紐づけを行い記録している。また、記録から問題点や状態をスタッフ同士共有し、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	転倒や急な体調変化の際に受診への付き添い、家族様がどうしても対応できない場合等に対して、病院へ付き添い同行を行っている。本人様にとって必要な支援やサービスを柔軟に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2カ月に一回、近くの美容室の方に来て頂いて、ヘアカットを行っている。コロナ禍の為ボランティアの活動受け入れは出来ていないが、コロナ禍が落ち着き次第、受け入れを始め、交流を図りたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人様とご家族様の希望を取り入れている。その後経過も家族様には報告し情報の共有を行い、密な信頼関係を築き、適切な治療を受けている。	ほとんどの入居者が提携先の医療機関で受診しているが、必要に応じて家族の支援を受けながら脳外科や精神科の受診も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護師が来られ、入居者様の状態の変化や観察での気づきを細かく報告相談し適切なアドバイスを得ている。また、24時間対応の為、急変時等もすぐに報告相談し、適切な看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や退院時には病院関係者や家族様と情報交換を行い、また、密に連絡を取り合い、本人様にとってよい状態で治療に向けられるように関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態を把握し、経過観察を行い、ご家族様との話し合いの場を設け、希望をお聞きし、ケアの方向性を検討し、終末期であっても安心して過ごせる様に、スタッフで情報とケアを共有し、支援に取り組んでいる。	今年4月から3件ものターミナル対応がなされており、非常に質の高いターミナルケアが行われている。他の入居者の混乱を招くこともなく、職員も粛々とターミナルへの対応ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を行い、急変や事故発生状況に合わせて、応急手当の方法や初期対応の訓練を行い、実践力を身に付ける様、取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回各種災害を想定した避難訓練と、内部研修を行っている。人員の少なくなる夜間を想定した訓練も行っており、各ユニットで連携を取れるようにしている。地域との協力体制については今の所なにも行っていない。	水害や地震に対応した訓練が年に2回実施されている。今後は実施記録の作成が予定されている。地域との協力体制の構築が課題であるが、地域特性も相まって現状では模索中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の一人一人の生活歴や歴史を知り、理解し、それを尊重した上で、ケアを行い、言葉使いにも十分気を付け、支援に取り組んでいる。	スタッフがトイレの扉を開けたまま排泄介助を行っているような場合は、互いに注意し合っている。入居者への呼称については表紙に記載した通りである。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケアの中で、本人様の思いや願いを汲み取り、その上で自己決定できるように声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人一人の生活のペースを尊重し、本人様の希望を汲み取り、スタッフが寄り添い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様に拘りが無い方が多い為、洋服を選んで頂く事が出来ていない。代わりにスタッフが季節に合わせ、洋服を選ばせて頂き、本人様にこれでよいかお聞きし選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	提供させて頂いているお食事は旬の食材を取り入れられており、季節感を感じられながらお食事をされている。また一部の入居者様はお片付けの手伝いをして頂いている。	昼食及び夕食に関しては、最近冷凍食品を購入し湯煎して提供するスタイルに変更した。スタッフの効率化が図られ、入居者の栄養の偏りがなくなり便秘が解消するなど、現在のところ高評価となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病歴に合わせた食事量とバランスを把握し、その人の状態に合わせた食事量や水分量を提供出来る様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に応じた口腔ケアを支援することで、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、それに伴った声掛けや誘導を実施している。体調の変化でパターンが変わった時も都度スタッフ間で情報を共有し、支援している。	自立している入居者が30%、全介助者が30%とのことで、入居者の重度化に伴い排泄のADLの低下も見られている。女性入居者で男性スタッフの介助を拒む場合は、その要望に応じるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排泄パターンを把握した上で、乳製品や食物繊維を意識したお料理を提供し、また腸内活動を促すよう歩いて頂いたりと予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ある程度入浴の時間は決めているが、入浴の際は本人様に確認し決定して頂き、拒否がある時も無理はせず、タイミングを合わせ、楽しい入浴を心がける様取り組んでいる。	入浴を嫌がる入居者もあるが、医師や家族から進言してもらい、何とか入浴が実現している。ゆず湯など、季節に応じた工夫や入浴剤の使用で入居者に楽しく入浴してもらえるよう工夫されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にお昼寝する方等、個々の生活習慣に合わせた休息と、温度調整や清潔な寝具でその人に合わせた安眠が出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居様が服用している薬について効用、副作用を把握し、状態の変化にも十分気を付ける様に取り組んでいる。また、投薬カードを直ぐに見れるところで管理し、直ぐに確認出来る様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴を把握し、全員ではないが掃除や洗濯物をたたむ等の役割を持てる様に支援している。また、スタッフと一緒にリビングの飾りを作成する時も、楽しそうにお手伝いし気分転換の一部として支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前はスタッフと一緒に散歩や買い物等の外出支援を行っていたが、現在はコロナ禍の為、出来ていない。コロナ禍が落ち着き次第、外出支援の機会を設けたい。	敷地内では自由に歩行等が出来るように工夫されている。以前は畑を作っていたが、作った入居者に収穫物を食べられてしまい、それからの取り組みはなされていない。	敷地内に入る門扉が二か所あるが、目立つワイヤー錠で施錠されている。防犯上致し方ないのであるが、近隣のイメージをより良いものにするために、目立たないソフトな施錠とされるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様のお金は施設預かりとさせて頂いているが、本人様やご家族様の希望により、希望の物品を購入したり、必要な物を購入することで、いつでも使える状態にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あまり希望される方がいない為、現在はほとんど電話やお手紙のやりとりをされることはないが、本人様が希望される際はいつでも電話を使用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場は季節に応じた飾りつけをし、出来るだけ光と風を取り入れ、明るく清潔感のある空間にしている。風通しをよく行い、新鮮な空気と、温度湿度調整を行い、快適に過ごせるよう取り組んでいる。	エアコンの温度調整(換気もかねて窓を開放してエアコンをかけることも)、テレビの音量等、入居者個々の感じ方の違いに配慮しながら、共用空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間はリビングと和室に分かれており、一人一人が自由に過ごして頂ける様取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族様と相談し、なじみのある物や家具を持ってきていただき、使い慣れた家具を使って頂くことで、居心地よく過ごして頂けるよう取り組んでいる。	入居前の馴染みのものを持参してもらおうと、家族らには働きかけるが、多くの場合新品が用意されてしまう。居室内に誕生日カードを飾るなどの工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事とわかる事を把握し、活かしていくために、状況に応じた声掛けや見守りを行い、安全を確保し、出来る限り自立した生活を送れるよう工夫し支援している。		